

「胸部低線量CT検査」のすすめ

日本の肺がんの特徴

肺がんは、日本のがん全体における死亡数1位、男性では1位、女性では3位の病気です。肺がんの増加傾向は著しく、罹患者は2015年には、男性は年間12万人、女性は3万人になると予測されています。

肺がんと診断された方の5年生存率は全体では20%と低いのですが、人間ドック、検診で発見された場合の5年生存率は60%と高く、自覚症状が出る前に発見することがいかに重要であるかがわかります。(東京都予防医学協会資料)

このような方にお勧めします

- 男性で40歳以上の方、女性で45歳以上の方
- 喫煙者、禁煙して10年以内の過去喫煙者、重度の受動喫煙者は年1回の検査を、それ以外の非喫煙者は5年に1回程度の検査をお勧めします。

喫煙者はまず「禁煙」が最重要！！

胸部低線量CT検査の目的

メリット&デメリット

- 胸部X線検査と比べ、多方面からのより精細な肺全体の画像診断ができます。
- 低線量CTによる検診の肺がん発見率は胸部X線検査の約4倍です。
- 末梢肺がんの発見は、胸部X線検査では1cm以上(部位によっては4~5cm以上)、胸部CT検査では5mm以上が可能です。
- 胸部低線量CT検査1回の被曝線量は1.15ミリシーベルトで、胸部X線検査(後前方向1回)の被曝線量0.02~0.1ミリシーベルトより高いですが、胃透視(胃部レントゲン検査)と同程度です。(東京都予防医学協会資料、日本対がん協会資料)

費用：10,000円(税込)

阿知須共立病院 健診センター

お問合せ・ご予約：0836-65-2711